

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2012年 9月15日 第92号 発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>
<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>		

海の森を見に行った

9月29日、海の森を見にいきました。海の森は、東京湾にある中央防波堤内側埋立地を都民や企業との協働によって森に生まれ変わらせようという東京都の取り組みで、全国都市緑化フェアの一環としてこの期間だけ一般公開されました。

新木場駅から無料の送迎シャトルバスに乗って、普通の人はまず行かないゴミの埋立地に向かいます。バスは新木場駅から材木関係の工場や倉庫が建ち並ぶ中を走り、埋立地である若洲公園のそばを通過して、東京ゲートブリッジをわたると、それらしい緑が混じった島が見えてきました。

さて、バスを降りると、そこは荒野。ゲートブリッジと大きな風車、砂漠のような砂山が目に入り、まばらに植栽されたところもあったが、東京とは思えない別世界。が、これが都市緑化フェアの会場です。イベント用のテントには海の森プロジェクトの説明パネルや、植えた樹木の展示説明、アンケートや工作が出来るコーナーもありました。



案内の職員に「どこへ行ったらいいですか」と聞いて、木を植えたあたりを目指して歩き始めました。最初の印象は、「まだ森になっていなかった」でした。木陰もなく9月末なのにかんかん照りで暑かった。それでも木がまばらに生えている荒れ地を歩き始めると、ツクツツボオシの鳴く声が聞こえ、バッタが跳ね、クズが絡んでいる木もありました。移植樹木の土と一緒にやってきたのです。陸地から離れた埋め立て地にどんな雑草が生えるのか見たかったのですが草は定期的に刈っており、緑化フェア期間中なのでぼうぼうの雑草はありません。島の標高は高いところで30m、板橋区の台地と同じくらいの標高です。埋立地なので、今でもメタンガスが発生し島内は禁煙だそうです。

植樹予定らしい分譲地のような区画もあり、木が植えられたところには植樹年度の看板があります。タブノキが多く、クロマツや、ヤマグワ、ハゼノキ、エノキ、サクラ、ヤマモモなどもあり、もうすぐ森になりそうな区画もありました。



左：植樹した一画

右：巨大な風力発電

海の森は、中央防波堤内側埋立地（面積は約87.9ha、その大部分は昭和48年から昭和62年にかけて区部で発生したごみ1230万トンで埋め立てられた土地）の東側にあり、2007年から植樹をはじめたもので、私達はその途中の様子を見ることになります。海の森づくりは、都民・企業・NPOとの協働により30年計画で完成させるという壮大な計画です。



左：これから植樹する区画。



右；23年秋(1年前)に植樹した区画

板橋区の「グループけやき」も、3年かけてドングリから育てた苗木100本を2010年9月に植樹しましたが、海の森の木は、そのような苗木ボランティアの植えた木や、寄付や企業からの提供苗木等が植えられ(ドングリから育てる苗木ボランティアは2011年で終了)都市緑化フェアの植樹まつりでは、個人や団体のボランティアが苗を植える作業をするそうです。

ここから見ると東京湾に面して林立したビル群が明らかに海からの風を妨げており、東京のすごい熱エネルギーを感じます。海の森がヒートアイランド対策、温暖化対策だということも納得です。明治神宮のように立派な森になるよう、私達も出来ることがあったら参加したいと思いました。



左：20年春植樹 右：21年春植樹 年度や苗木の状態によって成長も違う



埋立地の西側は残土置き場で、まるで別世界。排出残土を一時的に置き、使用するために運び出す場所らしい。対岸のビル群が見える。

東京湾のゴミ埋立地

埋立地に上陸すると、ゴミを出し続ける私達の生活をいやでも考えさせられました。

美濃部都知事の時代に東京ゴミ戦争がありましたね。東京23区のゴミを夢の島に搬入するのを江東区が受け入れを拒否したゴミ問題のはじまりです。今、大量消費大量廃棄は当時よりいっ

そう進んでいます、焼却炉が23区に建設され、さらにプラスチックも焼却処理されるようになってゴミ問題もあまり騒がれなくなりました。しかし、新木場から海の森までの車窓からみると、夢の島も陸地になり、東京湾に沿って埋め立てられた陸地が広がっています。中央防波堤内側埋立地、外側に中央防波堤外側埋立地ができ、その外側に新海面処分場（最後の埋め立て地）が整備されるそうです。一人一人の少なくないゴミを焼却しても全部まとめるとどうなるのか、と、途方もない現実を見せられた気がしました。（坂本 郁子）

ギャザリア ビオガーデン

「フジクラ木場千年の森」のこと

海の森と木場公園の外来種植物園を見学した後、木場駅を挟んで木場公園と対角線（木場1 - 5 他）にある、題記のビオトープを観賞した。造園直後に観ているが、2年経って植物たちも土や水に馴染んでいて、地表は草で覆われ山里の自然の風情をかもし出している。後日、設計から管理まで担当されている田邊プロジェクトマネージャー（フジクラ開発）にいろいろ教えて頂き、周りの草木が茂り放題で水も濁ってアオコが繁茂している当方のトンボ池とは、比べるべくもないことを納得した。以下に千年の森のビオトープについて概要を紹介する。

設置目的：2008年に施行された生物多様性基本法に記された事業者の責務にも準拠し、工場跡地の再開発に当たって、人と動植物が共生し優しく触れ合える場になることを期待、千年先を見据えた運営をするとの構想にもとづく名称にした由で、植樹式や魚の放流式などには近隣の児童が参加したという。

規模と構成：総面積2,200㎡、2つの池とその間を結ぶ水路部の面積：約400㎡、作業場：120㎡、通路部：約146㎡。

設計と施工：設計と施工は株フジクラ開発と専門業者とで行い、機材の準備から完成まで約8ヶ月を要したそうだ。

特徴：荒川流域圏の自然に見られる在来の動植物を対象にし、外来種は排除に努めている。

使用した土：盛り土などには、外来種の草の種子が混入しないように、きれいな赤土（三鷹市で採取）を使用し、植栽部には草木の多様性を確保するために、雑木林の落葉を除いた腐葉土（リターA0）層を荒川流域（深谷市）から取り寄せ、3cmほどの厚さに撒いているとか（約250㎡）。池の底面には防水シートを敷き、その上を荒木田土（田土）で覆っているそうだ。

植物：自然の植生を創り出すためタブの木、クヌギやコナラ、シラカシなどの中高木を53種630本（垣根も含む）花や実が見られるガマズミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ヤマツツジやハギなど中低木を23種2,200株ほど、地被・水草類（カンガレイやヒルムシロ、コオホネなど）36種15,800株ほどを植栽したという。野鳥や昆虫のために、枯れ木や流木も置いてある。クマシデやカエデなども植えてあり、秋には紅葉も楽しめ、ガマズミやムラサキシキブなどの実が野鳥を呼ぶのではなかろうか。

魚類：荒川支流の越辺川で許可を得て捕獲した魚は、オイカワ、タモロコ、モツゴ、それにギン

ブナのコイ科の小鱼を3百数十匹入れ(コイは大きくなるので入れていない)、ドジョウを100匹ほど、メダカを80匹強、トウヨシノボリを約40匹、甲殻類のスジエビとテナガエビも入れてあり、貝類としてはヒメタニシが260匹ほど放してあるそうだ。

水の管理：池の水は水位を検知して、水道水を自動補給するとともに、循環している水の一部を分流した回路で水質を監視し、滅菌をしているという。水抜き用に池の最深部に排水口が設けてあるが、まだ水の全入れ替えはしたことは無い由。

2年間の観察：飛んできた野鳥はカワセミ、カルガモなどの水鳥とスズメやヒヨドリなど15種類で、コゲラ、モズ、カワラヒワなど森や林の鳥は未だ来ていないようだ。水鳥の飛来は、隣接する平久川と水辺の連続性が期待通りであるようだが、大型のアオサギは未だ来ていないという。

昆虫の調査は実施していないが、トンボは何種か来ているらしい。植生ではヌルデやアカメガシワなどが実生してきているとか、クマシデのホップのような実が下っていた。

私たちが訪れたときにはホタルブクロやホトトギス、オミナエシ、ススキ、ミズヒキ、ヌスビトハギなどの花や種があり、当初見えた裸地はすっかりなくなっていた。池ではコオホネの黄色い花やカンガレイの実が散見された。

管理：高木の剪定は未だしていないが、限られたスペースなので適宜手を入れて樹高なども管理してゆくという。除去した草や木は隣接して設けた圃場で堆肥にして、畑で土に還すそうだ。池へ魚などを放り込まれる行為は此処でも何回か発生し、金魚やグッピーなどを除去したそうだ。

このビオトープの場所には、関連部門がありよく出入りした4階建て建物が並び、周りはコンクリートで固められていた殺風景な処だが、自然がみごとに蘇っている。これからもOB会などで出かけた折に、このビオトープを眺めるのを楽しみにしている。

以上、教えてもらったことを要約し、今回観たり感じたりしたことを綴ったが、ここでの観察会の案内なども含めたHPがあるほか、間もなく発行される造園学会誌に詳しく紹介される由なので、それらを参照されたい。(猪鼻 昭二)



ビオト-ブ平面図



完成直後（2010.11.19）撮影の上の池



開設2年後の今回（2012.9.29）撮影の上池

観察と活動の記録

9月15日(土) バッタ広場ササ刈、帰化植物抜き取り

アズマネザサ拡大した。アカボシゴマダラ産卵、アレチヌスビトハギ花(はじめて確認)、キンミズヒキ(初)、ヤブタバコ(初)ツマキシヤチホコ幼虫、オオカマキリ
ミニトンボ池干上がる。赤塚トンボ池はなぜか水多い(濁っている)

9月22日(土) バッタ広場ササ刈、帰化植物抜き取り

お彼岸になって気温下がる。雨のち曇り。バッタ広場ササ刈、帰化植物抜き取り。セイタカアワダチソウ、コセンダングサの草丈が伸びて蕾をつけはじめ、抜き取りにはちょうどよいタイミング。チカラシバが優先していたところが一部カゼクサに変わる。オオカマキリ、ハラビロカマキリの新しい卵、アオオサムシ、オオウンモンクチバ、クヌギシギゾウムシ、ヒカゲチョウ、セスジツユムシ? トンボ多数飛来

トンボ池の水は濁っているが雨によりきれいになったようで、ザリガニ多数がうごめく。

9月29日(土) 海の森、木場公園の帰化植物見本園、深川ギャザリアビオガーデン見学

10月20日(土) 成増1丁目向新田の森 観察と手入れ(アズマネザサ、シュロ、外来種のトキワツユクサ、階段側から森に侵入し繁茂した土止め用のオカメツタを刈った)、マンション建設により失われた森から移植したゴンズイが実をつけていた。

写真右: 成増4丁目緑地の林内。区の公園になったときに刈らずに残したムクノキの実生が1.5m~2mに成長して十数本群生している。他にシラカシの木の下には刈らずに残したシラカシの実生が群生している。



10月20日(土) バッタ広場手入れ

アズマネザサ刈り取り、花をつけたセイタカアワダチソウ、コセンダングサ抜き取り
アオオサムシ、オンブバッタ、クビキリギリス、イナゴ、オオカマキリ、カマキリ卵(オオカマキリ、ハラビロカマキリ)、マルカメムシ

トンボ池では子ども達がフェンスを乗り越えてザリガニ釣り。釣り人が死魚を持ち込み、私達の前で池に放り込み唾然。困ったものです。

活動のお知らせ

運営委員会：11月24日(土) 12月15日12:30~13:30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します。

連絡先；坂本(090-4618-1295)

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：1月19日(土) 12:30~

活動の問い合わせは事務局 瀬田(3969-7124)まで

1 講演会「身近な野鳥は今」(エコポリスセンター共催事業)

東京ではいなくなった鳥もいれば、昔は見かけなかった鳥が普通に見られたりします。彼らは何を食べてどこで子育てをしているのか、そしてどんな都市の環境変化が鳥たちに影響を与えているのでしょうか。赤塚公園などの都市公園で野鳥と共存できる公園整備や管理のあり方についても考えます。

日時：1月19日(土) 10:00~12:00

会場：エコポリスセンター研修室(地下1階)

講師：日本野鳥の会東京 川内博先生(都市鳥研究会代表、日本野鳥の会東京副代表)

申込み：事務局 瀬田(3969-7124)まで

2 赤塚ピオトープの観察と環境整備(雨天の場合は観察とゴミ拾い)

飲み物、軍手、タオル、汚れてもよい服装。カメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑等があると楽しい

11月24日(土) 10:00~12:00 バッタ広場のササ刈等

12月15日(土) 10:00~12:00 赤塚トンボ池とホタルの水路の観察と草刈等

12月22日(土) 10:00~12:00 バッタ広場と赤塚トンボ池の清掃など

3 日暮台公園樹林地観察会(原則として第1土曜日)(樹林地内の推移と林縁植物を観察)

12月1日(土) 10:00~11:00 日暮台公園前集合

1月5日(土) 10:00~11:00 日暮台公園前集合

ピオトープ管理のボランティア大歓迎

生き物のすめる草地(赤塚公園バッタ広場など)などの管理作業を応援していただけませんか。大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったりしています。

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)